

## 110周年記念事業への協力願い

母校の活性化に向けて

—母校の危機を思い—

同窓会長前野政美

各地区同窓会はもとより川辺の本部同窓会会員の皆様には御健勝のこととお喜び申し上げます。平素より同窓会運営には格別なる御支援と、御協力を賜りまして誠にありがとうございます。今後とも、会員の皆様のさらなる御指導と御協力をよろしくお願い申し上げます。

母校には、同窓会に出席しているそれぞれの人たちの思い出があります。同窓会はそういう思い出の箱をお互いに開きあって懐かしむ場でもあります。旧制中や新制高校の校歌を歌う頃になると、どこの同窓会でも最高潮に達します。新制高校の三番に『星の光は変わらねど 人改まる丘の上』があります。開学以来今年の三月までに、19,612人が母校を卒業しています。

さて、少子高齢化の現実がいたる所で話題になる昨今であります。公立高校の統廃合も着々と進んでいます。近くではすでに笠沙高校が廃校になり、県内ではいくつかの学校が統廃合されています。そして我が母校もここ数年、生徒募集に対する定員割れが続いています。我々の思いは一つ、「母校あつての同窓会であります。」各地区同窓会が一致協力して、何もかもうちよいて必死で母校を守り続けなければなりません。母校は薩摩半島の中心部に位置し、川辺盆地の緑多き自然に囲まれています。校内には我々の心のよりどころであり、青春の熱き思いを語り合った神戈陵があります。そんな母校を統廃合の対象にたくありません。

同窓会会則第2条に『本会は会員相互の親睦を厚くし、会員と母校との関係を親密にし、一致協力して母校の発展と向上を援助することを目的とする。』と謳っています。その精神に基づき、創立90周年で「財団法人神戈陵教育振興会の基金」、100周年でセミナーハウスであります「神戈陵尚学舎の建設」・「育英奨学金」・「遠距離通学支援」等を主たる周年事業として実現して参りました。来るべき110周年事業では「全館冷暖房設備の設置」ということで、前倒しで全館冷暖房を設置させていただき今年の7月より稼動しています。現在、生徒たちは冷房の下で一生懸命学習に励んでいます。

このような母校の存亡の危機にあたり、どうしても母校の状況を知って欲しいという思いから、8月9日に各地区同窓会の会長または代理の方に母校へお出でいただき、会長会議を開きました。またその場で、110周年事業のご理解と推進のために、あらためて募金のお願いをする所存であります。

悠久の自然と長い歴史に支えられて、今の自分が生きている。人にそのようなことを深く感じさせ、考えさせる場所は故郷であり古里です。帰郷の際や来るべき百十周年には是非母校を訪ねてみてください。

最後に、同窓生の皆様の御健康と御発展をお祈り申し上げます。

2008年08月26日 登録